

## 企画講座

### 春夏秋冬、三重の祭り

講師 北出 正之 郷土写真家・MKフィルム工房主宰

講師の北出さんは百五銀行に勤められた後、高校時代から始めた写真に魅せられ郷土の風景を撮り続けてきました。

百五の広報誌「すばらしき三重」の写真をご覧になった方もいらっしゃるでしょう。お人柄のあたたかさがうかがえる風景も人物も素敵なのですが、各地のお祭りを撮影された写真は今ではとても貴重なものとなっています。過疎化、少子高齢化で伝統のある祭りはだんだんと途絶えつつある中、写真を見せていただきながら船団の祭りを記憶にとどめていきたいと思っております。コロナ禍で春夏秋冬のお祭りの多くは中止となっています。冬もどうなるかわかりませんが、私たちが覚えていることが祭りを続けるよすがともなります。各地の祭りを見ながら祖先が伝えてきた文化の継承を考えてゆきたいと思っております。

日時 9月16日(水) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 戦場を駆け抜けた水軍大将 九鬼嘉隆

講師 豊田 祥三 鳥羽市教育委員会生涯学習課

天下を巡って争いが絶えなかった戦国時代、いち早く王手をかけた武将は織田信長でした。浅井・朝倉を討ち近畿をほぼ手中に治めた信長に立ちちはだかったのが大坂本願寺です。その命を受け伊勢長島に立てこもった一向宗の門徒の激しい抵抗に、さすがの信長も形勢不利となった時に救いの手となったのが九鬼嘉隆でした。海から大船で攻め、ついに門徒を破ったのです。そして、大坂本願寺を支援する毛利水軍との戦い(第2次木津川口の戦い)では、大砲を乗せた鉄張りの巨船で毛利水軍を打ち破り、押しも押されぬ日本一の水軍大将となりました。信長の死後は豊臣秀吉に仕え、朝鮮出兵の際には大湊で製造した日本丸を率いて船団の要になるなど活躍し、志摩3万5千石の大名となり、鳥羽城を完成させました。しかし、関ヶ原の合戦で嘉隆とその子守隆は東西に分かれ、敗れた西軍について嘉隆は答志島に逃れますが、切腹をして果てました。

漁業に従事し、平穏に暮らしていたような伊勢志摩にこんな歴史があったことは、あまり知られていません。

その昔熱い血潮をたぎらせた九鬼一族の興亡について知ってみたいとおもいませんか? 実は最近に見つかった興味深い資料のお話もあるのです。

日時 9月18日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 本居宣長を巡る人々

講師 井田 もも 本居宣長記念館学芸員

春の講座で予定しておりました講座です。本居宣長は誰もが知っている国学の大家です。松阪商人として名高い小津家の生まれですが、商売に関心を持たず医師となりました。内科と小児科が専門で、小児用の薬を製造して成功し家計の足しとしたという現実的な話も残っています。学問は主に夜におこなったそうで、国学者として次第に名声を得るようになります。弟子の数は480人を超え、伊勢国だけではなく他の地域にも及んで、町人、農民、神官、武士、医師、僧侶などさまざまな立場の人がいました。内宮の禰宜荒木田経雅もそのひとりです。60代の頃には名古屋、京都、和歌山、大阪、美濃などに旅行し、旅先でも多くの人と交流したと記されています。さてどんな人たちがいたでしょう。鈴好きでも知られ、駅鈴のレプリカは今の鳥根県にあった浜田藩の殿様が講義を聞く前にプレゼントしたものだそうです。学者というだけでなく多方面に活躍した宣長さんの人物像とその交友関係など、ちょっといい話をお伺いします。

日時 9月24日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 戦国貴族の生き残り戦略⑧

講師 岡野 友彦 皇學館大学文学部長

國學院大學図書館所蔵「久我家文書」に含まれる戦国時代の古文書を読み解くことで、戦国時代を生き抜いた公家貴族たちの苦悩と「したたかさ」についてお話しています。第8回は永正6年(1509)の「蘆山寺想蓮庵照雲亮券」などを読みながら、「加地子」と呼ばれる地主(小作料)収入に生き残りかけた戦国貴族の姿を見ていきます。なお参考文献として、岡野友彦著『戦国貴族の生き残り戦略』がご購入いただけます。中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!! ※岡野先生著「戦国貴族の生き残り戦略」は1,700円(税別)です。

日時 9月28日(月) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 神宮摂社・末社・所管社の歴史 その4 なじめ那自売神社の歴史について

講師 音羽 悟 神宮司庁広報室広報課課長

前回は宇治山田神社の歴史について、倭姫命の御巡行と宇治土公氏との関わり、さらに周辺の地誌とも絡めて考察しました。今回はその続編として、同社に御同座される那自売神社について解説します。『倭姫命世記』によれば、各地を巡幸された倭姫命が家田の田上宮より奈尾之根宮にお出ましになったと記録されています。一般に「奈尾之根」は「納米」とも表記され、「なじめ」は「なおいね」の転訛であり、また那自売は奈宇志禰の旧称で「岡田納米」である、と先学は考証しています。では古く奈尾之根宮は現在のどこに鎮座していたのでしょうか。「奈宇志禰」(奈尾之根)は、奈良時代より鎌倉時代初期にかけての現在の宇治中之切町周辺の古い地名と思料され、奈尾之根宮はこの一帯の何処かに存在したと考えられます。宇治土公氏の祖先を祀る興玉森に宇治山田神社と那自売神社が明治になって一緒に合祀され、今日に至りますが、今回はその経緯についても詳細にお話しいたします。

日時 10月9日(金) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 漢字の旅「男・心・見」～高先生に学ぶ漢字は面白い～

講師 高 潤生 書道篆刻家・現代印作作家

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は甲骨文字。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは占いの結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。今回、注目するのは、「男・心・見」。男の心と秋の空。男の心を究極的に見据えた漢詩があります。清代随一の詩人纳兰性徳の「人生若只如初见…」(もし人生は最初に惚れた一目のままで続けていけばなんと素晴らしいが…)です。この漢詩を鑑賞しながら、甲骨文字の「男・心・見」を究明しましょう。甲骨文字の書き方も指導します。

日時 10月13日(火) 13:30～15:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名



### 「もみぢ香」を楽しむ

講師 東 堯霞 香道御家流三條西宗家直門師範

「昨日よりは今日はまされるもみぢ葉の明日の色をば見ては止みなん」拾遺集 恵慶法師  
(昨日より今日の色の美しさが一段とまざっている紅葉の葉の、明日の色を見ないで止めようとするのか)  
「日本の紅葉は世界一美しい」と言われています。欧米に比べ日本は、赤や黄色、オレンジ色があり、常緑樹などの緑色も混ざって多彩で美しい紅葉がみられるのです。落ち葉でも絵になるのはこのためなんですね。秋も深まったころ、紅葉は日本人が愛してやまない自然が生み出す秋の芸術です。今回は、その秋の芸術「もみぢ香」を、香りで存分に楽しみます。お楽しみみの香りは「かえでは羅国」「いろはは伽羅」、両方ともにとっても良い香りです。それぞれの香りを優雅に聞き分けて、紅葉狩りを楽しみましょう。

日時 10月13日(火) 18:30～20:30 参加費 会員 5,300円 ビジター 5,800円(香庭料・食事代・お菓子含む)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 宇治と山田の自治組織

講師 山中 一孝 豆腐庵山中代表取締役

春に中止になった講座ですが残念という声が多かったので復活いたします。神宮の歴史や伊勢の郷土史に関心のある方は「宇治二郷年寄」や「山田三方」という名前に出会ったことがあると思います。室町～江戸時代に神宮の鳥居前に成り立った宇治と山田の町。その自治組織の名称がそれなのですが、どこにでもある自治組織というわけではありませんでした。ここ神都ならではの独特の成り立ち、権限を有していた組織です。なんせ徳川幕府は遠国奉行である「山田奉行」をわざわざ神領のギリギリ外において監視を続けたくらいです。江戸時代の宇治と山田は政治も経済も御師たちが中心でした。その御師たちが会議制で町を運営していたのです。伊勢ならではの歴史の1ページをのぞいてみませんか?

日時 10月21日(水) 18:30～20:00 参加費 会員 850円 ビジター 1,350円  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名

### 古法窯づくりトンボ玉を作ってみよう

講師 藤村 茂樹 古法窯づくり(有)藤村トンボ玉工房代表取締役

トンボ玉とは穴のあいたガラス玉で、同質のガラスで作ったいろいろな模様のパーツを象嵌(ぞうがん)した玉のことをいいます。一般的なトンボ玉は、ガスや重油のバーナー・ランプ等を使い、既製の色ガラスを購入して作られたトンボ玉が主流です。しかし、正倉院の宝物などの古いトンボ玉を復元する場合は、一般的なガラス玉では限界があります。そこで藤村トンボ玉工房は先代の故藤村英雄氏の意向により昔ながらの製法にこだわって、色ガラスを作り出すところから玉に仕上げるまでをすべて炭の火で作ります。江戸時代以前の技法を再現し今も守り続けている唯一の工房なのです。古法により製作されたトンボ玉は、深みのある色合いで古の人々の愛した輝きを放ち続けています。古法窯づくり藤村トンボ玉は昭和62年2月6日に大阪府の伝統工芸品に指定をされ、二代目の藤村眞澄氏は平成22年「現代の名工」受賞、平成25年「黄綬褒章」を受賞されています。今回は先生にご無理を言って少し大物に挑戦します。ご要望の多かった帯留め用の楕円のトンボ玉を作ります。模様も花と渦巻の2種類から選んでいただけます。今までより手間や難度が上がりますので、作製時間や冷ます時間も長くなりますが、トンボ玉づくりの醍醐味を味わっていただけることでしょう。大人気の講座ですでお申し込みはお早めに。※帯留め用からペンダントや根付用の丸に変えることもできます。 ※出来上がった作品はお持ち帰りいただくまで1時間程冷ます必要があります。

日時 10月27日(火) 12:30～16:00 参加費 会員 3,750円 ビジター 4,250円(材料費含む)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

### はじめての花結び～茗荷結びのペンダント～

講師 川本 美香子 日本結び文化学会会員

「花結び」は一本の紐を手で結び、花や蝶、紋などの形をつくる飾り結びです。「結ぶ」という行為には、長い歴史と伝統に培われた美しさが存在しています。古代人は、その結び目に神の御心が宿ると信じていました。仏教の伝来と共に花結びが伝えられると、花結びの文化は一気に花開きました。現在でも、信仰に関するもの、日本の伝統的なものなどには残っていますが、私たちの暮らしからはほとんど消えてしまいました。そんな優美な結びを現代風にアレンジして楽しんでみましよう。お教えいただくのは茗荷結びです。野菜の茗荷に似ていることから、この名が付けられました。ひもを着物の襟合わせのようにきちんと重ねていくのがコツで、大きさや目的によって巻く回数を変えて結びます。比較的新しい結びで和服のコートのボタンなどに使われていますが、今回はペンダントトップとして結び仕上げます。(筆記用具・ハサミ・ピンセット・まち針(二本)を必ずお持ちください) ※材料準備の都合により、11/6に申し込みを締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日時 11月11日(水) 13:30～15:30 参加費 会員 2,300円 ビジター 2,800円(材料費含む)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

### 秋の星見と宇宙の観測×理論

講師 野田 学 名古屋市科学館学芸課天文主幹

10月6日に火星が2年2ヶ月ぶりに地球に接近します。この火星の動きの観測データからヨハネス・ケプラーは惑星の軌道が求めていた完全な円ではなく、楕円であることを導きます。秋の夜空に火星を観望しつつ、天文学での理論と観測のエピソードをたどります。

日時 11月18日(水) 18:30～20:30 参加費 会員 1,150円 ビジター 1,650円(お菓子付き)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 20名 ※お菓子は講座に合わせて作っていただく五十鈴茶屋の特製菓子です

### こうじの力～豆味噌づくり～

講師 河村 恵美子 株式会社靴屋取締役専務・こうじマスター

こうじの歴史と伊勢地方の食生活、靴を使った料理、健康と靴などのこうじ文化をシリーズで体験する講座の2回目です。麴を知ればあなたの食生活が豊かになること請け合いです。今回は花付き大豆から味噌を造ります。岡崎八丁味噌の流れを引く伊勢味噌はこの地域の気候にあった豆味噌です。当日作った味噌はお持ち帰りいただけますが、1年ほどねかせていただくこととまろやかなおいしい味噌になります。1300年の昔から味噌汁は日本人の健康を支えてきた食べ物です。この機会に美味しい手作り味噌をつくってみませんか?(エプロン、手ふきをお持ちください。)

日時 11月26日(木) 13:30～15:00 参加費 会員 2,500円 ビジター 3,000円(材料費含む)  
場所 五十鈴塾右王舎 定員 15名限定

### 楽しい俳句

講師 石井 いさお 俳人協会三重県支部長・煌星俳句会主宰

わずかに17文字にいろいろなことを詠みこむ俳句。筆記用具さえあればいつでもどこでも楽しめる手軽な趣味。難しいことといえば貴族社会で楽しまれていた和歌に始まり連歌、俳諧となり、芭蕉が芸術にまで高めた究極の短詩です。これを生み出したのが日本地であることは世界に誇るべきことです。日本語のリズムは知らず知らず5・7・5になっというわけです。つまり誰もが俳句を作る下地を持っているのです。いまや世界の日本人々々が作る俳句、一度ぜひ作ってみてください。石井先生がわかりやすくノウハウを教えてください。

期日 9月23日(水)・10月28日(水)・11月25日(水) 時間 各回10:00～12:30 定員 20名  
参加費 各回 会員 1,550円 ビジター 2,050円